

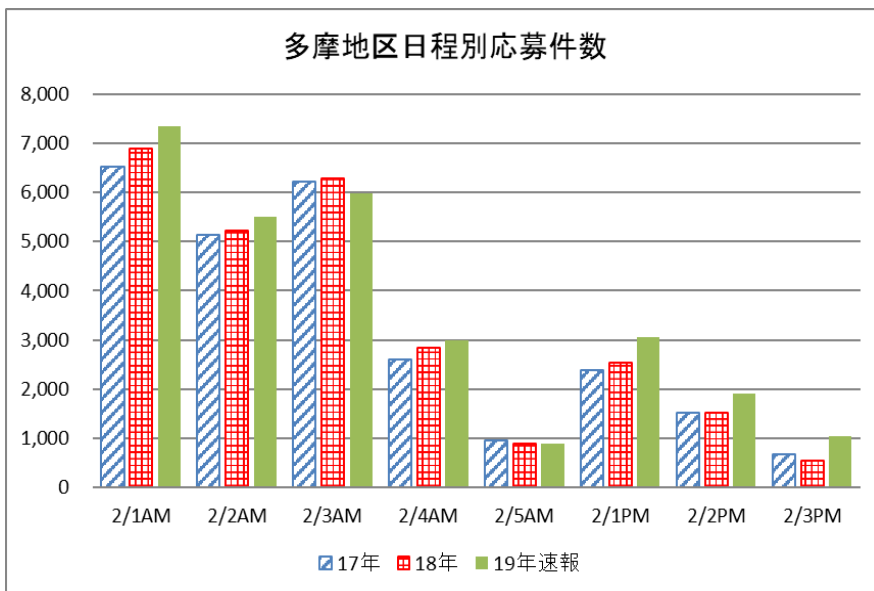
# 東京多摩地区私国立中入試概況

## 1. 概況 応募者数、受験者数が児童数増加率を大きく上回る大きく増加

今年の多摩地区の公立小6年生徒数は約 33,900 名で昨年より約 1,000 名増加しています。1月までに実施される帰国入試を含めた、2月15日現在の中学受験の応募総数は私立、国立、公立一貫校の合計約 30,200 件で、昨年の最終を約 2,300 件上回りました。一部に入試結果未公表の学校や追加入試などがあり、今後その分が上乗せされます。一昨年、昨年に続く応募者数増加ですが、今年は増加幅が大きくなっています。多摩地区の児童数は増えていますが、伸び率では大きく上回り、23 区の応募者

数の伸び率よりも高い伸び率です。実際の受験者数も約 22,300 名で昨年最終より 1,900 名近く増加、合格者数は約 8,900 名で、昨年最終より 400 名あまり増えています。合格者数にはコース制実施校での上位コース入試での入り易いコースのスライド合格や、特待入試での一般合格を含まない学校もありますから、「入学できる合格者数」はさらに増えますが、実受験者の増加に合格者の増加が追いついておらず、倍率面では難化しています。しかし、全ての学校が難化したわけではなく、応募者が減った学校も見られます。

上のグラフは中学受験の各校の応募者数を日程別に集計して一昨年、昨年と比較したものです。私立、国立、公立一貫校の合計で、今年は速報値です。応募総数では2月1日午前が今年も最多で、次が3日午前、その次が2日午前の順になります。1日午前は昨年よりも400名以上、2日午前も300名近く増えていて、中学受験の拡大で応募者が増加していることがわかりますが、3日午前は少し減っています。3日午前には都立の一貫校の選抜日、都立は応募者が増えています。国立の学芸大附属小金井もありますが、1校だけですから私立各校の応募者が減ったことが3日の減少につ



ながったわけですが、桜美林が入試を3日午前から午後に移したのが一番大きい影響を与えました。3日午後の増加も同じ理由です。

午後入試は1日や2日も応募者が増えています。中学受験志向の増加とともに、全体的に午後入試の人气が上がっていること、午後入試で魅力的な学校が増えていることが理由ですが、1日午後は神奈川県で触れている桐蔭学園の1日午後入試の廃止で、多摩地区に受験生が流れた面もあります。また、晃華学園が初の午後入試を新設して、多くの応募者があったことも応募総数の増加につながりました。2日午後の増加は穎明館が初の午後入試を行い、多くの応募者を集めたことや桐朋女子の入試新設が主な理由です。

今度は、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別

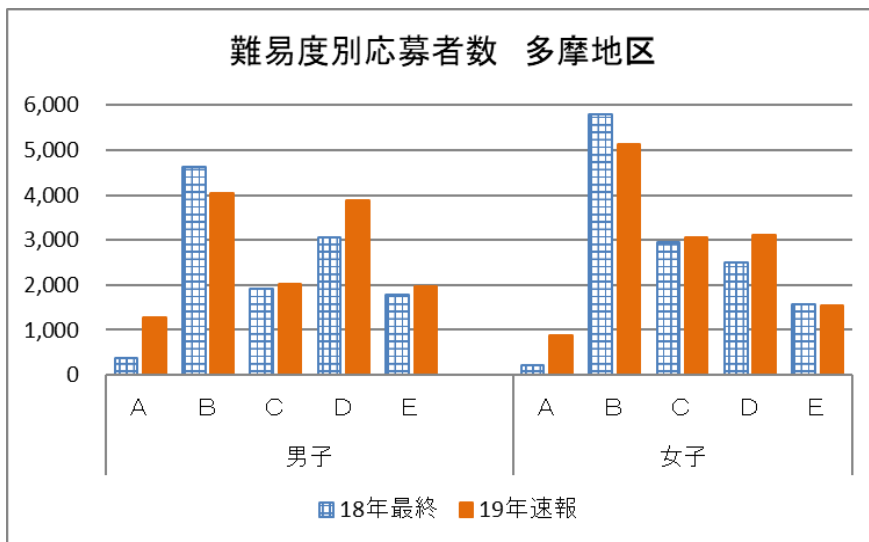
で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

今回から明大明治をBグループからAグループに移したため、早稲田実業だけだったAグループが2校になりましたが、その影響で男女ともAグループが増加。Bグループは減少しています。A・Bを合計すると男子は応募者が増加していますが、女子は昨年並みでした。中学受験志向の拡大で男子は挑戦志向が強くなっていますが、女子はそうでもないことがわかります。また、男女ともDグループの増加が目立ちます。A～Eグループを合計した応募総数は男女とも増えていますが、増加の中心はDグループです。Dグループの学校のすべてで応募者が増えたわけではなく、学校によって増減はいろいろ

ありますが、中高一貫教育への期待が高まって中学受験が拡大したのは、第一志望であれ併願の押さえであれ、このグループの学校を考えている受験生です。また、男子は僅かですがEグループも増えていきます。地元の公立中よりも面倒見がよいことへの期待でしょう。

以下、各校の入試状況を見ていきます。なお、都立の立川国際、南多摩、三鷹、武蔵高附属は、公立一貫校のページをご覧ください。

☆



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で多摩地区私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…明大明治・早稲田実業
- B…吉祥女子・成蹊・中大附属・帝京大学・桐朋・法政大学・明大中野八王子
- C…穎明館・大妻多摩・桜美林・晃華学園・創価・明治学院・東京学芸大小金井
- D…共立女子第二・工学院大附属・聖徳学園(特奨)・玉川学園・多摩大聖ヶ丘・東京純心女子・東京電機大・桐朋女子・ドルトン東京学園・日大第三・八王子学園・武蔵野大学・明法(サイエンス GE)
- E…サレジオ(小平)・国立音大・啓明学園・駒沢学園女子・白梅学園清修・自由学園男子部・同女子部・聖徳学園(一般)・帝京八王子・東海大菅生・東星学園・日体大桜華・八王子実践・藤村女子・明星学園・武蔵野東・明星・明法(進学GRIT・国際理解)・和光

2. 男子校・女子校

まず男子校から。桐朋の応募者数は、2月1日の1回、2日の合計で一昨年が小幅ながら増加、昨年は少し減って、今年は再び増加しています。1回は昨年並みですから、2回の増加です。併願受験生でしょう。1回は昨年並みの合格最低点ですが、2回は受験者が増えて合格者を絞ったため上昇、少し難化しています。

明法は昨年、明法・GEの2コース制から国際理解、進学GRIT、サイエンスGEの3コース制に改編しました。今年から高校が共学化しますが、中学募集は

男子校のままです。一昨年は小規模な入試でしたが、昨年はコース改編や入試増設などもあって、各回次合計の応募者数は増加しました。今年は2月3日の入試を午後から午前に移行しています。各回次合計の応募者数は昨年並みですが、2月1日午前午後は増加しており、志望順位が高い受験生が増えているようです。実際の受験者数は増えていて、合格者はやや増やしただけです。平均の倍率は上がっています。合格最低点は概ね昨年並みですが、2月2日午後は少し上がっています。合格者が少ないので得点分布からの影響でしょう。難度はあまり変わっていないようです。高校が併設されていないサレジオ(小平)は、今年も昨年並みの応募者数の小規模な入試で、合格最低点も昨年並みでした。

女子校は武蔵野女子学院が共学化、武蔵野大附属になりました。男女校で取り上げます。まず吉祥女子から。昨年まで隔年で応募者の増減が見られました。今年は減る順番ですが、2月1日の1回、2日の2回とも少し増えていて、4日の3回は昨年並みでした。中学受験志向の高まりでの人気でしょう。実際の受験者数も1・2回は少し増えています。合格最低点は各回次とも上下していますが、出題内容の影響で、難度面では3回とも昨年とあまり変わっていないようです。カトリック校の晃華学園は2015年に3回入試から2回に削減して以来、他校併願前提の受験生が減少、昨年まで応募者総数も減っていました。今年は2月1日午後に初めての午後入試を新設、既存の1日午前と3日午前の入試は、応募者がやや減ったものの、午後入試だけで午前の2回の合計を上回る応募者がありました。1日午前合格最低点が少し下がって、やや入り易くなったようですが、新設の午後入試は7割を超える得点率がないと合格せず、難化した入試になっています。3日午前合格最低点は昨年並みの合格最低点でした。

大妻多摩は、昨年は各回次合計の応募者数が昨年より増えていましたが、今年は減っています。特に2月1日午後と2日午前の4科入試の減少が目立っていて、併願受験生が他校に流れているようです。実際の受験者数、合格者数も減っていて、合格最低点は各回次とも昨年よりも下がりました。少し入り易くなっています。

東京純心女子は、自己アピール型のタレント発見入試を2月3日午後に移しました。昨年まで各回次合計

の応募者数が減っていて、小規模な入試になっていましたが、今年は特に2月2日午前の応募者が増えて、小規模は脱しています。実際の受験者数も少し増えていますが、合格者数は減らしています。合格最低点は1日の適性検査型が上がっていますが、得点分布の関係で難度はあまり変わっていないようです。他の回次も昨年並みで、レベル維持を図った結果でした。共立女子第二は理科実験のサイエンス入試を新設しました。もう「女子は文系や芸術系」という時代ではないことをアピールした入試です。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年とも小規模ながら減っていましたが、今年はやや増えています。合格最低点は2月2日午前の4科が下がっていますが、得点分布の関係でしょう。他の各回次は昨年並みで、難度に変化は見られません。

桐朋女子は2月3日のB入試を2日午後に移して2科4科選択とし、1日午後に英語入試を新設しました。帰国1回の入試日を動かしました。各回次合計の応募者数は、一昨年が前年並み、昨年はやや減りましたが、今年は増加しています。ただ、21世紀型学力を求める2月2日の論理的思考力・発想力入試が減って、2日午後に移ったB入試が大きく増えています。この入試は同校が力を入れて一昨年新設したのですが、実際の受験生は従来型を求める気持ちが強いのでしょうか。実際の受験者数は増えていますが、合格者も増えていて、難度面は昨年と変わっていないようです。

白梅学園清修は、2月2日午前の科目選択から適性検査型を取りやめました。昨年も応募者が多かった入試で、1日の適性検査型も応募者が減ったことから、今年は小規模な入試になっています。難度もあまり変わっていないようです。日体大桜華は2018年度に桜華女学院から校名を変更しました。いくつか入試に変更はあったものの、今年も小規模な入試で、駒沢学園女子もプレゼン入試や英語入試の新設などがあり、藤村女子も1科選択入試を新設していますが、両校とも昨年に続いて小規模な入試で、難度も特に変化は見られません。

### 3. 男女校

まず新設校のドルトン東京学園から。アメリカで定評がある教育法のドルトンプランを取り入れ、国内の難関大学だけでなく海外大学も狙い、アクティブラーニング型授業やICTの活用など、最先端の教育を実

施する学校としてスタートします。教育内容への期待感が高いのですが、正直なところ学費も相当なもので、どのくらいの応募者が出るか注目されていました。各回次合計では650名近い応募者数、350名を超える実受験者数があり、回次によって上下はありますが、平均的には1.3倍台の実質倍率でした。本稿執筆時点ではまだ合格者の学力層の集計ができていませんが、中堅校程度の難度だったようです。初年度から中学受験界に存在感を示した入試結果でした。

**武蔵野女子学院が共学化した武蔵野大学は**、選抜進学と総合進学の2コース制を取りやめ、単一コースとし、適性検査型入試や思考力入試やプレゼン入試も新設しました。応募者は大きく増えていて、男子も各回次合計で100名を超える応募者がありました。共学化に期待する女子受験生の増加の方が大きくなっています。2月1日午前午後の入試は志望順位が高い受験生が多いことから、不合格者はあまり多くはありませんでした。難度も昨年の武蔵野女子学院の総合進学コースとあまり変わらない難度だったようですが、2日午前以降は実質倍率が2倍を超えていて、昨年より少し難化しているかもしれません。

他の学校は付属カラーの強い学校から見ていきます。**早稲田実業**は、一昨年が前年並みの応募者数、昨年は男女ともやや増加、今年も男女とも増加していて、男子の増加が目立ちます。有名大学附属校の人気の高くなっていることが反映しています。合格最低点は男女とも上がっていて、少し難化したようです。**明大明治**は、昨年は2月2・3日の1・2回男女とも応募者が少し増加、昨年は男子もやや増えましたが、女子の増加が目立ちました。今年は男子の1回が昨年並み、2回は少し増えていますが、女子は1・2回とも減少しています。昨年の高倍率から、少し敬遠傾向が出たのかもしれませんが、合格最低点は男子が1・2回とも概ね昨年並み、女子はやや下がって、少し入り易くなったようです。

系列校の**明大中野八王子**は、一昨年2月5日午後の4科総合型B入試を新設、既存の2月1日の1回・3日の2回とも男女の応募者が増加、昨年はB入試の難度が敬遠されて応募者が減って、その分1・2回が増加、各回次合計では一昨年並みでした。今年も合計ではほぼ同じ応募者数で安定した人気です。ただ、女子が各回次とも増えていて、男子は少し減っている回次もあ

り、女子の人気の高さが際立っていて、有名大学附属志向が強いことが表れています。合格最低点は1回が上がり、2回とB入試が少し下がっています。実質倍率を勘案すると出題内容の影響が強いようで、難度は各回次ともあまり動いていないようです。

**法政大学**は、一昨年は各回次の応募者数が若干増加、昨年は増加、今年も2月5日の3回がやや減ったものの、合計では昨年並みでした。一昨年、昨年と女子の人気の高くなっていましたが、今年も各回次とも女子が少し減って男子が増えています。同校は関係者向け説明会などで「もっと男子を」と訴えていましたが、効果があったようです。合格最低点は1日の1回が昨年並み、3日の2回と5日の3回が少し上がっています。出題の影響もありますが、2・3回は少し難化したかもしれません。ただ、各回次とも今年も女子の合格最低点の方が高く、応募者は少し減ってもまだ女子の応募者・受験者の方が多く、優勢であることに変わりはありません。**中央大学附属**は帰国生入試を新設しました。実質3.5倍で、帰国生入試では比較的高い倍率でした。一般入試は昨年、2月1日午前の1回、4日午前の2回とも増えていましたが、今年も両方とも増えています。男子は昨年並みの応募者数で、女子が増えています。有名大学付属校人気です。1回は合格者数を絞っていて、少し難化したかもしれません。2回は昨年並みでしょう。

**成蹊**は一般入試と国際学級入試を行っていて、さらに2月1日の1回に帰国生入試を設定しています。一昨年は各回次とも前年並みの応募者数、昨年は国際学級が前年並み、2月1日の1回は減少、4日午前の2回は少し増えていました。今年も各回次男女とも応募者が増えていて、特に2回の男子の増加が目立ちます。どちらかと言えば女子に人気がある学校ですが、男子の人気の高さが上がってきました。合格最低点も1回男女、2回男子が上がり、少し難化しました。2回女子も昨年並みです。独特な存在の**創価**は、2月1日午前のみ入試です。応募者数は昨年が一昨年並み、今年も男子がやや増えて女子は昨年並みで、人気は安定しています。合格最低点は公表されていませんが、難度は昨年とあまり変わっていないでしょう。

**明治学院**は、昨年は2月1日午後の1回が応募者増加、2日午前の2回もやや増加、4日午前の3回はほぼ前年並みでした。今年も各回次ともやや増加、1回と3

回は男子、2回は女子が増加の中心です。昨年まで隔年で増減していましたが、人気は上向いています。実際の受験者数も増えていますが、合格者は逆に絞った回次もありました。ただ、合格最低点は1回が少し下がっていて、2回がやや上がり、3回は昨年並みです。1回は志望順位が高い受験生が多いので、少し配慮したのかもしれませんが。2回はやや難化、3回は昨年並みの難度でしょう。**玉川学園**は、国際バカロレア(IB)クラスを持つ学校です。今年はそのIB入試の応募者が減っています。同校は首都圏でのIBの草分けですが、他校でも実施するようになって受験生が分散しているのでしょう。一般クラスは各回次合計で一昨年がやや増加、昨年はやや減少、今年は再び小幅ですが増加しています。隔年現象ですが、固定ファンが多い学校ですから、難度面は各回次とも昨年並みでしょう。

**東海大菅生**は昨年まで隔年的な応募者数の増減が見られ、今年は増える順番の年でしたが、各回次とも応募者が減っています。ただ、実際の受験者数は応募者数程減っておらず、あらかじめ遅い日程まで出願しておく受験生が減った面もあります。合格者数も少し減っていて、合格最低点は回次によって上下が見られますが、もともと不合格者が少ない入試でしたから、難度面は昨年とあまり変わっていないようです。**帝京八王子**は2月4日の入試を3日に移して6日に入試を新設しました。小規模な入試の学校で、やはり隔年現象で応募者数が増減しています。今年は増える順番ですが、少し減っています。やはり難度面では特に変化はなかったようです。

**明星**はグローバルサイエンスと本科の2コース制です。今年は適性検査型入試を増設、英語特化型入試も新設しました。一昨年、昨年と、新規入試の新設で各回次合計の応募者数は増えていますが、今年も増加しています。ただし、実際の受験者数は応募者数ほど増えておらず、複数回出願者が多くなったようです。合格者も増えていて、難度面は各回次とも昨年とあまり変わっていないようです。

独特な教育方針の**和光**は、2月2日の入試を午後から午前に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は昨年より増えていて、実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は昨年並みで、難度は特に変わっていないようです。**国立音大附属**は、音楽のプロを目指すコースの他に、

普通コースは音楽教養に力点を置いていましたが、音楽教養は音楽準備コースとして分離、普通コースを文理コースとして通常の大学受験を目指す教育内容に改めました。音楽準備入試を新設したり、文理コース向けの適性検査型入試を新設しましたが、受験生に浸透していないようで、今年も小規模な入試でした。

系列大学があっても付属カラーが薄い学校では、**帝京大学**は2月2日午前の2回を4科のみ・特待入試に変更しました。昨年は各回次とも応募者が小幅の増加で、男子が増加の中心でした。今年も各回次とも応募者が増えていますが、今年も女子が増加の中心です。進学校志向の強い女子受験生が集まっています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度は変わっていませんが、特待認定はかなり高水準だったようです。**桜美林**は2月3日の入試を午前から午後に移しました。一昨年は各回次合計の応募者が女子を中心に増加、昨年は一昨年新設した教科横断・記述型の総合学力評価入試の応募者が大きく増えたほか、1日午後、2日午前、2日午後男子の増加が目立ちました。今年も総合学力評価入試はやや減ったものの、他の回次は応募者が増えて人気上昇が続いています。実際の受験者も増加、実質倍率はやや上がっています。合格最低点は1日・2日の午前の4科が上昇しましたが、2科は午後入試も含めて昨年並みですから、各回次とも難度はあまり変わっていないようです。

**東京電機大**は昨年までは応募者が少しずつ減る傾向が続いていましたが、今年も各回次とも増加、人気は戻ってきました。増加の中心は男子で、女子はやや減っている回次も見られます。実際の受験者数は増加しましたが、合格者はかえって絞っていますが、合格最低点は女子の1日午前、3日午前が少し下がっていて、他の回次も昨年並みだったのに対して、男子は各回次とも上がって難化しています。昨年も同じ現象が見られ、男子には厳しい入試が続いています。**日大第三**は、一昨年まで各回男女とも応募者の増加が続いていましたが、昨年は各回次合計で一昨年並み、今年も少し減って、上がっていた人気にブレーキがかかってきたようです。実際の受験者数も減っていますが、合格者はやや増えていて、各回次とも少し入り易くなったかもしれません。

**多摩大聖ヶ丘**は一昨年も各回次合計の応募者が増加、昨年は各回次とも減少、今年も各回次とも大きく

増えました。隔年的な人気の変化です。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格最低点は2月1日午後の2回と、5日午前の5回が上がって、やや難化したかもしれません。他の回次は昨年並みでした。**工学院大附属**はハイブリッド特進、ハイブリッド特進理数、ハイブリッドインターの3コース制で、国際バカロレアも視野に入れた教育内容です。各回合計の応募者数は、昨年に続いて少し減っています。国際バカロレアを視野に入れた教育は、地域的にもまだなかなか浸透していないようで、新宿の大学キャンパスからもスクールバスを運行していますが、今一つ受験生の認知度が上がっていないようです。実際の受験者数、合格者数も少し減っていますが、難度はあまり変わっていないようです。

純然たる進学校では、**穎明館**は昨年、一般入試の中で行っていた帰国生入試を別日程で新設しました。今年是一般入試の中でインターナショナル選抜として帰国生などの募集を復活したほか、2月2日午後に初めての午後入試を新設しました。昨年まで各回次合計の応募者数は減少傾向が続いていましたが、今年は午後入試に多くの受験生が集まりました。既存の入試は今年も各回次とも応募者が少し減りましたが、合計では増加しています。実績のある進学校ですが、都心部の進学校を目指す流れ、大学付属校人気の影響などで、併願受験生中心になってきました。1日午前のI回、2日午前の2回は合格者数を絞り込んだため、合格最低点が増え、難化しています。4日午前の4回は昨年並み、新設の午後入試は満点が異なるため単純比較はできませんが、1・2回並みの難度だったようです。

**八王子学園**は東大医進・一貫特進の2コース制です。一昨年は適性検査型と1日午後の東大医進コースを中心に応募者が増え、昨年は適性検査型だけでなく、2科4科の入試の各回次も応募者が増えましたが、今年も適性検査型は増えたものの、他の回次は昨年並みか、少し減っていて、合計ではやや減となっています。女子は全体に増えていますが、男子が減っていて、他校に流れた受験生もいたようです。実際の受験者数も少し減っていますが、合格者はやや増えていて、1日午前の2科と、3日午後は2科4科とも合格最低点が増え

し下がっています。どちらも少し入りやすくなったかもしれませんが、他の回次は昨年並みで、難度に変化は見られません。

**聖徳学園**は、昨年は適性検査型入試のパターンを増やし、今年プログラミングの入試を実施するなど、入試の変更が活発です。各回次合計の応募者数は、昨年は減少、昨年は少し増えていましたが、今年も適性検査型や2月3日の入試が減っていて、合計では再び少し減っています。適性検査型は実施校が多く、他校に流れた受験生もいたのでしょう。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、特別奨学生はレベルアップを図って合格最低点が増え、他の回次も昨年並みで、難度は維持しています。独特な教育方針の**明星学園**は、曜日の関係で帰国入試を1日前倒しにしました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増えていて、今年も2月1日午前のAはやや増加、他の回次は昨年並みの応募者数でした。実際の受験者数、合格者数も少し増えていますが、もともと固定ファンが受験生の中心ですから、難度は各回次ともあまり変わらなかったようです。

**国立の学芸大小金井**は、一昨年は応募者増加、昨年と今年それぞれ前年並みで安定した人気です。難度もあまり変わっていないようです。この他、帰国生指導で定評のある**啓明学園**は一部に入試の変更があり、インクルーシブ教育の**武蔵野東**は、イングリッシュエキスパート入試を新設したほか、昨年新設したプレゼン型の未来探究入試の回数を増やすなどの変更がありました。両校とも各回次合計の応募者数は昨年並みの小規模な入試でした。**自由学園**は近年広報活動に力を入れています。昨年よりは応募者がやや増えていますが、独特な方針もあって、同校も小規模な入試でした。**東星学園**も今年も応募者が増えていますが、小規模な入試でした。**八王子実践**は教育内容の改革とともに、入試では適性検査型、自己表現入試、英語入試だけで、通常の国算社理の教科入試を廃止して注目されました。応募者は増えていますが、もともと小規模な入試で、今年も脱するまでには至っていません。難度もあまり変わらなかったようです。